

mini column

「へえ〜、そうなんだ!」

クモ

指導普及課長

青山一郎

Ichiro Aoyama

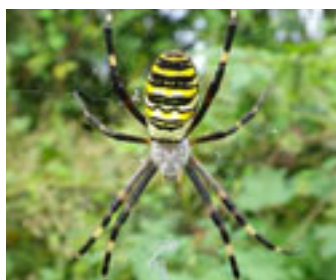
馬が肥えるという秋、路傍のジョロウグモも肥えてきた。巣を張る造網性のクモで、大きな巣に悠々と構える、待伏獵の名手だ。中央にいる大きく派手なのは雌で、よく見ないと気づかない小さく地味な雄が巣の隅に控えているのが名の由来の一つと言われる。

周知のとおり、クモは昆虫とは全く別の仲間で、足の数や頭胸が一体化しているなどの違いがあり、八つの単眼を持つのも特徴。オニグモやコガネグモなどの立派な巣をはる連中が印象的だが、巣をつくらずに獲物を捕らえる徘徊性のものも多い。ハシリグモやカニグモの仲間など。英名ジャンピングスパイダーのハエトリグモは驚異的な跳躍で襲いかかり獲

物を仕留める。正確な距離感を得るため正面の二眼が発達して馴染みやすい顔だ。

生物の写真をよく見ると被写体の目に撮影者が写っていることがある。多いのはヘビやカエルで、相手も真横から見据えているのに改めて気づく。正面からこちらを見つめるハエトリグモの目にも時としてカメラマンがいる。複眼の昆虫にはないことで親近感がわく。

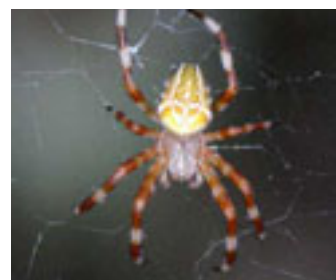
造網性のクモは卵で、徘徊性クモは成体で冬を越すものが多い。空中と地上、それぞれの狩り場での獲物の発生量に適應した生活史になっているのだろう。まもなく山も眠る冬。丸々と太ったジョロウグモもやがて産卵を済ませ彼らの季節は終わる。



コガネグモ



ジョロウグモ



ヤマオニグモ



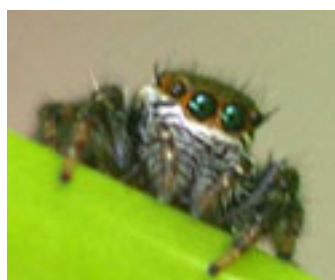
イオウイロハシリグモ



ワカバグモ



ハナグモ



ハエトリグモsp



デーニツハエトリ